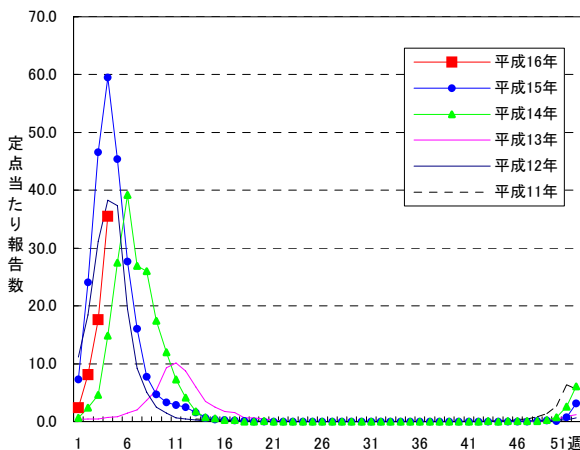
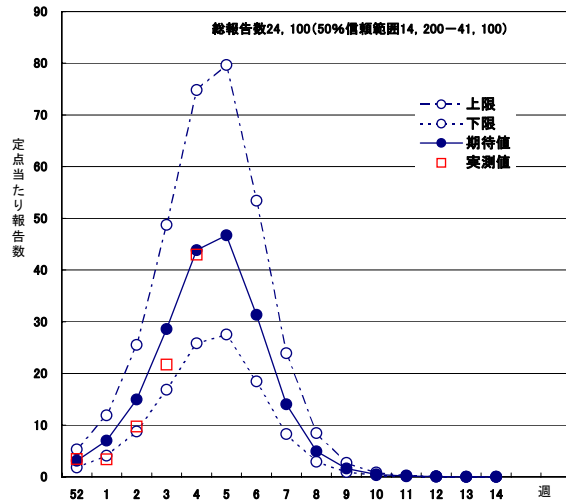


流行状況

インフルエンザ



愛知県インフルエンザの流行予測* (名古屋市を除く)



* 愛知県衛生研究所において平成 15 年～16 年シーズンのインフルエンザの流行予測（報告総数、報告推移）を行なったところ、インフルエンザ総報告数は 24,100(50%信頼範囲 14,200～41,100)となり、前シーズン 39,829 の約 60%に減少する。ピークは第 5 週(1 月 26 日～2 月 1 日;5,600)、終息は第 14 週(3 月 29 日～4 月 4 日)と予測されています。なお、集団かぜの発生については愛知県のホームページ記者発表資料 (<http://www.pref.aichi.jp/service/kisya/>) をご覧下さい。

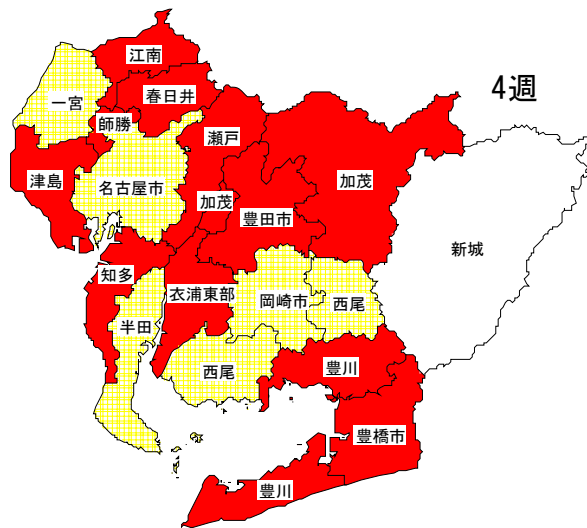
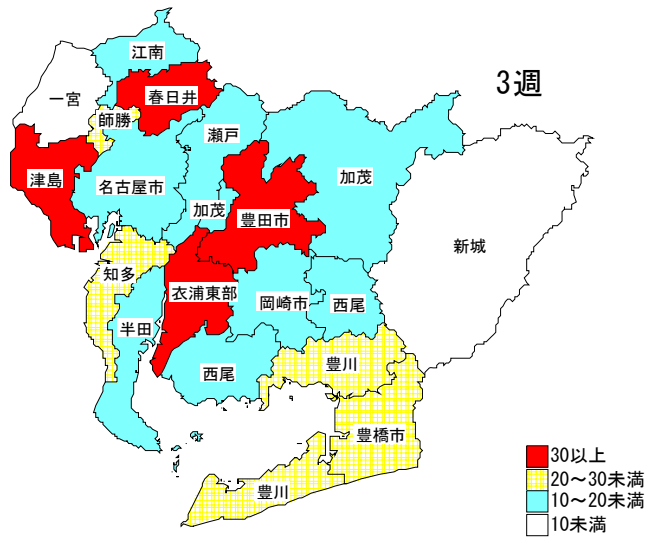
疾患名	前週	今週	備考
<u>インフルエンザ</u>	17.6 ▲	35.5 ▲	インフルエンザウイルスによる急性感染症で高熱、四肢疼痛、頭痛、全身倦怠感、食欲不振を主症状とする
<u>感染性胃腸炎</u>	6.6 ▼	7.0 ▲	細菌あるいはウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢症
<u>水痘</u>	2.2 ▼	2.3 ▲	「みずぼうそう」とも呼ばれ、ウイルスが原因で発生する人から人にうつる感染症

* 全国状況につきましては厚生労働省感染症研究所感染症情報センターホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報をご覧下さい。

定点当たり報告数			* 矢印は過去 6 週間の報告数の平均と今週の報告数を比較したものです。
▼ 減少	→ 横ばい	▲ 増加	

感染症についての説明及びグラフ総覧については、愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

インフルエンザの保健所別報告数の推移（名古屋市含む）



		4週	定点 当たり	3週	定点 当たり			4週	定点 当たり	3週	定点 当たり
名古屋市	△	1719	24.6	802	11.5	岡崎市	△	248	22.5	150	13.6
瀬戸	○	313	34.8	165	18.3	衣浦東部	○	531	48.3	366	33.3
津島	○	508	72.6	225	32.1	西尾	△	123	24.6	64	12.8
師勝	○	217	54.3	102	25.5	豊田市	○	435	54.4	249	31.1
一宮	△	344	21.5	156	9.8	加茂	○	107	35.7	57	19.0
春日井	○	504	56.0	304	33.8	豊橋市	○	893	74.4	288	24.0
江南	○	206	34.3	70	11.7	豊川	○	392	43.6	191	21.2
半田	△	131	21.8	73	12.2	新城		17	8.5	13	6.5
知多	○	228	32.6	153	21.9						

△ は今週注意報が出ている保健所です。
 ○ は今週警報が出ている保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるインフルエンザの流行発生注意報は保健所（市）定点当たり 10 人を越えた場合に、また、流行発生警報は 30 人を越えた場合に発生し、10 人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

- 病原性大腸菌O1 0歳男、2歳男、3歳女、32歳女
病原性大腸菌O18 2歳男、9歳女、14歳女、18歳女、40歳女
病原性大腸菌O25 1歳女
病原性大腸菌O86a 1歳男、20歳男
病原性大腸菌O112ac 15歳女
病原性大腸菌O125 1歳女
病原性大腸菌O153 2歳男
ロタウイルス 12名
アデノウイルス 1名
インフルエンザ著増
ロタウイルス著増
感染性大腸菌発生も著増しております。
【尾西市 城後小児科】
- インフルエンザは全てA型で27例中8例予防接種済み。
【一宮市 後藤小児科医院】
- インフルエンザ増加(A型 52人、B型 1人)17人はワクチン接種者
エルシニア腸炎 2歳男
【一宮市 あさのこどもクリニック】
- インフルエンザ全てA型
【一宮市 平谷小児科】
- アデノウイルス感染があいかわらず流行しています。
【稲沢市 稲沢市民病院】
- 生研のインフルエンザキット使用していますが、15分では反応が終了しないことがあり、疑わしい症例はメンブレンが乾いてから再判定する必要があります。疑陽性例は減少しましたが、感度がやや下がった印象です。綿棒は太くて鼻に入りません。
【犬山市 武内医院】
- インフルエンザが急増しました(64名 すべて A型)。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
- インフルエンザ 50例 全てA型で軽症が多い。うちワクチン接種者 14名
水痘も多し
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
- 8歳男、10歳 マイコプラズマ感染症
インフルエンザワクチン接種者で罹患された方が数名居られます。
【春日町 丹羽医院】
- インフルエンザ予防接種済みの人も検査で陽性になった患者さんがありました。
3名 53歳女、13歳男、71歳男
【師勝町 師勝クリニック】
- インフルエンザはすべてA型です。
【師勝町 田中クリニック】

尾張東部地区

- A型インフルエンザが増えていますが、約 1/4 はワクチン接種しています。
伝染性紅斑もあり。
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
 - インフルエンザ急増しました(ほとんどA型ですがB型も1例ありました)。
アデノウイルス感染症も幼児で散見されます(咽頭結膜熱4歳男児)。高熱を認め
ますがインフルエンザと異なり一般状態が良好です。
その他、嘔吐下痢も多く見られます。
溶連菌、水痘、伝染性紅斑散発(伝染性紅斑 4歳女児はA型インフルエンザも
合併)
【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】
 - 41歳女黄色ブ菌感染性腸炎
78歳女カンピロバクター感染腸炎
8名A型インフルエンザ
【豊明市 豊明団地診療所】
 - A型インフル 35例(11例 ワクチン済み)
B型 1例
A、B型 1例
タミフル無効例 3例
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
 - インフルエンザAが流行しています。15、16歳の中3～高1が多いです。
インフルエンザワクチン2回接種しても罹患しているケースもあります。
【春日井市 かがわ北病院】
 - インフルエンザA流行(先週に比して急増)全体に有熱期間短い。
ウイルス性胃腸炎あるも多くない。
アデノ感染減少
【小牧市 小牧市民病院】
 - 4歳男子1人A、B型です。
インフルエンザA型と感染性胃腸炎が多い様です。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
 - インフルエンザA 15名
【半田市 医療法人林医院】
 - インフルエンザ10名 全てA型
【南知多町 医療法人大岩医院】
 - アデノチェック瞬時に(+)となる。アデノウイルスによる扁桃炎 3歳女、2歳女
【美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院】
 - 小、中学校でインフルエンザ流行しています(A型です)。
【東海市 小児科ハヤカワ医院】
 - インフルエンザ流行中ですが、急激な増加はなし。
胃腸炎でのCRP上昇が何例かあり。
【大府市 まえはらこどもクリニック】
-

西三河地区

- 4歳男 アデノウイルスイムノカードST(+)
5歳男 strepA(+)
1歳男 病原大腸菌O125
6歳男 病原大腸菌O25
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
- インフルエンザは全例 A 型です。このほかにクイック陰性、タミフル有効の例がチラホラ見られました。
【豊田市 わかぞの東洋クリニック】
- 9ヵ月女 病原大腸菌O6
1歳男 サルモネラ腸炎
【豊田市 すくすくこどもクリニック】
- 1歳女 病原性大腸菌O1、O6
【岡崎市 花田こどもクリニック】
- 5歳女 病原性大腸菌O1 VT(-)
4歳女、6歳男 イムノカードST アデノウイルス(+)
【岡崎市 にいのみ小児科】
- 4歳女 アデノウイルス滲出性扁桃炎
インフルエンザ 全てA型 ワクチン接種者 40%位
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
- インフルエンザA型 28名 (9名家族内発症、5名ワクチン接種済)
27名 ラピッドテスト Flu AB A(+)
【岡崎市 永坂内科医院】
- 男性16例、女性12例
70歳代女性2例はワクチン接種済み(いずれも家庭内感染)。
【岡崎市 村山医院】
- インフルエンザ増加してきました。
ロタウイルス感染症も増加
【碧南市 永井小児クリニック】
- キャピリアFluA(+) 26例
【刈谷市 田和小児科医院】
- インフルエンザ58名、10歳以上に多い。
【知立市 宮谷クリニック】
- インフルエンザは全例 A 型
4ヵ月男 RSウイルス
1歳 アデノウイルス胃腸炎
2歳 カポジ水痘様発疹症
6ヵ月男、1歳男、3歳女 アデノウイルス感染症
【幸田町 とみた小児科】
- インフルエンザ A 12名(3名はワクチン接種済)
【西尾市 やすい小児科】
- 今年もインフルエンザ予防接種済みの小児の罹患目立ちます。
【西尾市 山岸クリニック】

- インフルエンザが増えてきました。
感染性胃腸炎もひき続き多いです。

【三好町 三好町民病院】

東三河地区

- インフルエンザA流行中
麻疹 1歳女(5歳姉より感染、2人共ワクチン未接種)
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
- インフルエンザA型がほとんどですが、FluB(+)が一人いました。
【豊橋市 あずまだこどもクリニック】
- インフルエンザが大流行中です。すべてA型
【豊橋市 野村小児科】
- 74人(13歳～74歳)全てA型であった。
そのうちワクチン接種後の感染者を8人認めた。
【豊橋市 医療法人山本内科】
- インフルエンザが大流行しています。
209例すべてA型でした。
【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】

一～三類感染症の発生状況

— 愛知県(名古屋市を除く。) —

- 発生報告なし

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

— 愛知県(名古屋市を除く。) —

- 後天性免疫不全症候群 1例
(無症候性、推定感染経路:不明、推定感染地域:不明)
- 梅毒 1例(無症候性:3週の追加報告)

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

寒い日が続いています。通勤電車で見回しているとコートにマフラー、マスクに手袋という完全装備で武装した人が目立ちますが、見ているだけでこちらが寒くなりそうな短いスカートの女子高生もいたりします。いつも貴重な情報を有難うございます。1月前半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内:名鉄病院福田先生からはA型インフルエンザ(重症の要入院例急増中)とロタウイルス感染症が増加、水痘が多い傾向があり稀に風疹もあり、気管支炎・マイコプラズマを含む肺炎が目立つ、差出人不明で筆跡から第一日赤松山先生?からインフルエンザA10例、水痘6例、非ロタウイルスの感染性胃腸炎入院7例、城北病院渡辺先生からはインフルエンザ様疾患が急増し時間外が多忙、熱がでると深夜でも受診、ワクチン接種者でもインフルエンザ陽性者が多く、水痘散見RSウイルス陽性者はあまり多くない、第二日赤岩佐先生からはインフルエンザAとロタウイルス腸炎が外来や入院例で目立つ、千種区今枝先生からは感染性胃腸炎(ウイルス性)が時々あり大人も数名、ムンプスの小学生2名、マイコプラズマ感染症が幼児や小学校低学年で時々あり、三菱病院入山先生からはA型インフルエンザが13例と目立ち気管支炎・肺炎を合併した入院例6例、マイコプラズマを含む肺炎の入院10例、感染性腸炎と溶連菌感染症が各2例、中京病院柴田先生からインフルエンザ増加し入院例も増加、ロタウイルス感染症も発生し要入院例あり、大同病院水野先生からはインフルエンザは少しずつ増加しているがまだそれ程多くない、ロタウイルス腸炎が増加中で脱水がひどくて要入院例目立つ、肺炎(マイコプラズマ)の入院目立つとのお手紙でした。
- 2) 尾張地区:犬山市武内先生からは感染性胃腸炎の多発が持続(カンピロバクター3例を含む)、水痘と伝染性紅斑が散発中でA型インフルエンザ感染症3例、江南市昭和病院小児科からはA型インフルエンザ、感染性胃腸炎、溶連菌感染症が目立ち、RSウイルス感染症による入院例も目立つ、常滑市民病院上田先生からはロタウイルスとその他の感染性腸炎(要入院例あり)、インフルエンザ(入院例目立つ)、水痘(重症例で入院あり)と溶連菌感染症、マイコプラズマ肺炎、RSウイルスによる細気管支炎の入院も目立つ、半田市民病院小児科からはインフルエンザAが少し出てきた(入院例あり)、マイコプラズマ様肺炎少数、ロタ陰性の感冒性胃腸炎少数とのお手紙でした。
- 3) 三河地区:トヨタ病院木戸先生からはインフルエンザA型目立ち入院例も増加、熱性痙攣の入院が目立ち、ロタウイルス、RSウイルス感染症散見、加茂病院梶田先生からはインフルエンザAが少しずつ増えてきた、ウイルス性腸炎(ロタ陰性)が多く水痘が流行中でRSウイルス、アデノウイルス感染症の入院が多い、安城更生病院小川先生からは嘔吐を主とする胃腸炎が多くA型インフルエンザが散発、乳児早期の細気管支炎が多い、知立市近藤先生インフルエンザA4例、ムンプス流行中で嘔吐性感冒がまだつづき、ロタウイルス感染で入院2例、刈谷市田和先生からはインフルエンザAが毎週4~5名、嘔吐下痢症が目立ちロタウイルス陽性がたまに、水痘とムンプスが時々、碧南市永井先生からは嘔吐を主症状とする胃腸炎が引き続き目立ちA型インフルエンザが出始めた、豊橋市からはインフルエンザA、感冒性嘔吐症、マイコプラズマ肺炎が目立ち、年始の診療開始早々麻疹患者に緊張(市内長屋先生、宮澤先生)とのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部(文責 磯村)

2004年1月9日(79巻1/2号)

- ☆ SARSの検査室診断例。中国南部。中国南部・広東省居住の32歳男性がSARSの疑いで12月20日から入院していたが検査室内診断からSARSウイルス陽性との報告が1月5日にWHOにあった。この例は実験室内接触事故以外の感染発病例としては04年の最初の確定例で、TVプロデューサー、12月26日の検査結果から疑いをもたれていたが、WHOの公認検査機関である香港大学とクイーンメリー病院ウイルス部でSARSコロナウイルス陽性と確定された。感染経路は不明。市場で販売されているハクビシンなどの野生動物との接触が過去の例では報告されているが今日まで決定的な証拠は得られていない。この例についても、野生動物との接触などの明白な感染機会はない。中国当局はさしあたり発病4日目以後の本人の隔離と接触者の調査を開始し、WHO専門家を含むチームが派遣された。
- ☆ 新生児破傷風根絶。マラウイ。2002年、マラウイ当局はWHOと国連小児基金との協力のもとに、生出産1,000当り1例以下を目標に根絶計画が開始された。基本としては 新生児破傷風の報告、清潔な出産、出生前の妊婦管理、妊婦と妊娠可能年齢の女性への破傷風トキソイド(TT)接種である。01年における全国集計は、①新生児破傷風発生率(生出産1,000当り):0.04(分布0~0.33)、②清潔な出産%:56(分布3~79)、③TT2回接種妊婦%:85(分布21~111)、④妊婦検診受診率%:91(分布は未報告~141)、⑤DPT三混3回終了乳児%:84(分布74~130)、⑥DPTが1回か2回だけの%:12.5(分布7.9~26.8)であった。結果が良くない3地区(8,341世帯38,221名)を選び訪問員による調査と指導実施、03年4月にはTT2回接種者が妊婦で84%(分布81~87%)、妊娠可能年齢女性で78%(分布74~82%)となっていた。
- ☆ 結核とHIV感染者(TB/HIV)。WHOのTB/HIV政策への勧告。目標:
 - ①TB とHIV/AIDS対策の共同作業の機構を確立、②HIV/AIDS生活者から結核を減らす、③結核患者からHIV感染を減らす。体系:①結核対策とHIV対策の効果的な連携活動体系を全てのレベルで確立する。②結核患者中のHIV感染動向調査。③対TB/HIV合同計画実施と監視。HIV/AIDS生活者から結核を減少するため正確な調査、INH予防内服導入、公衆衛生活動強化が必要。結核患者のHIV感染対策:HIV検査、カウンセリング、HIV感染予防の指導、感染者の支援、抗HIV剤の導入など。世界各国の成人のHIV陽性率、結核患者のHIV陽性率を多い順にカテゴリー1からカテゴリー3に分類して対策実行の勧告が示されている。
- ☆ インフルエンザ。世界の状況(鳥型インフルエンザについては記載なし)。ベルギー:流行中。A(H3N2)型。カナダ:流行中の地区と減少した地区。A(H3N2)型が主流。チェコ、フィンランド、フランス、ギリシャ:小規模~全国流行。A(H3N2)型。ノルウェー:やや減少、ポルトガルとロシア、スイスいずれも増加、A(H3N2)型。ウクライナ:増加中でA(H3N2)とA(H1N1)型。米合衆国:流行中の州の数は減少したが肺炎患者数と死亡例数は平年より多い。A(H3N2)型が主流。ワクチンと同じタイプ。
- ☆ 1月2日-8日届出。コレラ:ベニン、コンゴ、リベリア、マリ、ニジェール、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエ、インド。

